

青年の「自立」とキャリア教育の諸論点-調査研究をもとに

福岡大学 植上一希

はじめに

- ・ 報告者の研究領域と主たる研究テーマについて
- ・ 報告の目的

1. 青年の労働・生活の不安定化の広がり、新たな状況へのアプローチに関する諸論点

(1)従来の「標準的」ライフコース

- ・ 日本型雇用を中核とする企業主義統合下での「標準的」ライフコース
- ・ 「標準的」ライフコースと「戦後日本型青年期」

(2)日本型雇用の転換と青年の労働・生活の不安定化の広まり

- ・ 日本型雇用の転換
- ・ 「戦後日本型青年期」の解体と青年のライフコースの「第二標準」の出現

(3)青年層理解における〈所与性のドグマ〉の問題

(4)新しい社会状況における青年層理解の試み・支援の方向性

- ・ 第二標準に対応する職業的社会化システムと社会保障システムの整備という課題
- ・ 第二標準を生きる青年の労働と生活へのアプローチの試み

2. 教育領域における中心的検討課題

(1)教育領域における「問題」の一般的な捉えられ方とその問題性

(2)青年期教育の在り方の再考の必要性

- ・ 戦後日本型青年期モデルからの脱却の必要性
- ・ 従来の青年期教育論と今後の青年期教育論の論点～青年期概念をめぐって

(3)学校中心の教育システムの再考へ

- ・ 青年の労働・生活に多様な形で関わる「教育」の在り方の模索へ
- ・ 教育内容・方法の転換
- ・ 近年の「キャリア教育」論の特徴

3. 専門学校におけるキャリア形成研究から提起しうる論点

(1)「狭義の職業教育」のとらえなおしの必要性

- ・ 専門学校教育における人間形成的側面の重視⇔「即戦力」重視

(2)専門学校生のキャリア形成（進学・学び・卒後）から提起しうる諸論点

- ・ 好きなことを学ぶ、やりたいことをやるための進学をどう考えるか
- ・ 職業についての学びを通しての青年としての成長
- ・ 職業世界と就業前教育との関係性（レリバンス）に関する諸論点～「効果」がないと「意味」がないのか？
- ・ 「傍系」のキャリアルートとノンエリート青年のキャリア形成

おわりに